

製品名: WNT1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80766**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	WNT1
別名	INT1
遺伝子 ID	7471.0
SwissProt ID	P04628
免疫原	大腸菌で発現した WNT1 の精製された組み換え断片。

背景

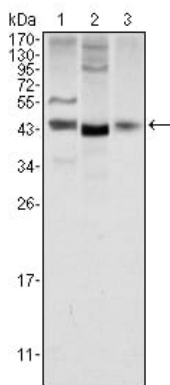
WNT1: wingless 型 MMTV 統合部位ファミリー、メンバー 1。WNT 遺伝子ファミリーは、分泌シグナル伝達タンパク質をコードする構造的に関連した遺伝子で構成されています。これらのタンパク質は、腫瘍形成や、胚発生中の細胞運命とパターン形成の調節を

含むいくつかの発生プロセスに関係しています。この遺伝子は WNT 遺伝子ファミリーのメンバーです。進化において非常に保存されており、この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マウス Wnt1 タンパク質とアミノ酸レベルで 98% 同一であることが知られています。マウスの研究では、Wnt1 タンパク質が中脳と小脳の誘導に機能することが示されている。この遺伝子は当初、小脳低形成を主症状とする常染色体劣性疾患であるジュベール症候群の候補遺伝子と考えられていました。しかし、その後の研究で、遺伝子変異はジュベール症候群において重要な役割を果たしていない可能性があることが示唆されました。この遺伝子は、染色体 12q13 領域で別のファミリーメンバーである WNT10B とクラスター化しています。

研究分野

Wnt シグナル伝達経路

画像データ



NIH/3T3 (1)、3T3L1 (2)、および HeLa (3) 細胞溶解物に対する WNT1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。

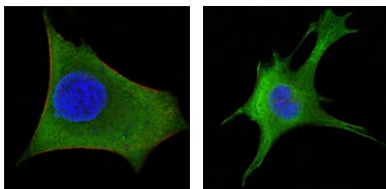
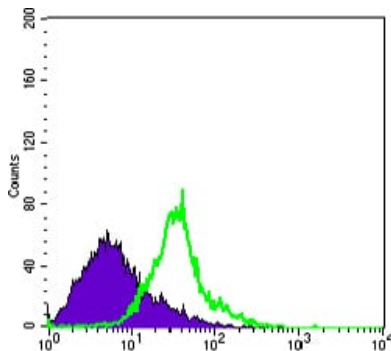
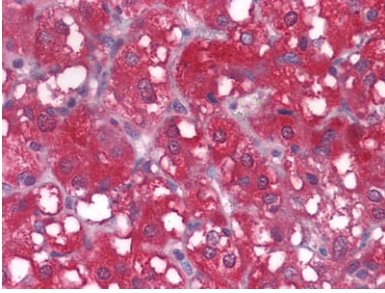


図 3: WNT1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞 (左) および 3T3-L1 細胞 (右) の共焦点免疫蛍光染色。赤: DY-554 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



WNT1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



WNT1 マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト LAdrenal 組織の免疫組織化学分析